



Museum Collection Exhibition

Cherishing Flowers, Yearning for the Moon: Nature and Beauty in Japan

2021年 7月22日(木・祝) ~ 8月22日(日)

古来、人々は自然に親しみ、時の移り変わりを敏感にとらえてきました。鳥の声や虫の音に季節の到来を感じ、散り急ぐ桜や色づく紅葉、満ち欠けを繰り返す月にも移ろう美を見出しました。こうした自然の美に対する細やかな感性は、歌人たちが残したおびたしい和歌や、四季折々の草花や自然の事象がさまざまに造形化された美術作品にも結実しています。

花を愛でる心は梅や桜、藤などの花木にとどまらず、野の小さき草花にもあまねく向けられました。春夏秋冬の花々を季節の順に描いた屏風は、和歌とともにあった平安時代の四季絵や月次絵の遠い記憶を思い起こさせます。物語絵にみる季節の花々は、場面の設定をより明確に伝える効果をもたらしましたが、四季の花が同時に咲き揃う庭は、特殊な空間を演出し、浄土あるいは異界を連想させる装置となりました。

月は時間の推移を知り得る時計や暦の代わりとして、人々にとって現在よりも身近な存在でした。「仲秋の名月」のように、秋の風物としてその美しさをたたえられる一方で、日毎に姿を変える様子には、自然の生命力の移ろいを感じさせる秋への哀愁が重ねられました。そうした思いは歌に詠まれ、また身の回りの工芸品の意匠にも反映されました。

この展覧会では、四季の草花や月など自然の風物が表現された絵画や工芸、およびそれらを詠んだ和歌が記された古筆切などをご覧ください。日本の季節や自然を親しく感じていただければ幸いです。

日本の自然と美

企画展

花を愛で、

月を望む



上 武蔵野園屏風 全巻 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵
下 四季草花図屏風 伊年七印 石堂歌少 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

根津美術館
NEZUMUSEUM



根津美術館 NEZU MUSEUM

<http://www.nezu-muse.or.jp>

四季の草花を描いた小振りな屏風。季節は右から左へと推移し、春の薊・都忘から冬の南天や水仙まで、約70種の植物が表現される。俵屋宗達工房の「伊年」印がある金地草花図屏風の中でも、優品として知られる。



しき そうかずびょうぶ いねん
四季草花図屏風 「伊年」印
6曲1双
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

右隻に沈みゆく太陽を、左隻には昇らんとする月を、いずれも野に茂る秋草と共に描く。武蔵野（関東平野の一部）は、古くから草が生い茂る広大な野原というイメージがある。月は草の中から昇り、また草の中へ沈む、と和歌にも詠まれた。



むさしの ずびょうぶ
武蔵野図屏風
6曲1双
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

ほんあ み こうえつ こうほ
本阿弥光悦の孫、光甫（号 空中齋）（1601～82）が信楽焼を写したもの。銘の「武蔵野」が、箱の蓋表に配された蒔絵の秋草と満月とで表現される。

しがらきうつしちやわん むさしの
信楽写茶碗 銘 武蔵野
ほんあ み こうほ
本阿弥光甫作
1口
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵



(箱蓋表)



秋の草花のおみなえし女郎花や藤袴、萩、薄、桔梗などが蒔絵で表現された硯箱。主題となる和歌の意を示す、繊細な蜘蛛の糸も見どころの一つ。秋草の意匠は伝統的に大変好まれた。

あきのくものすまさえずりぼこ
秋野蜘蛛巣蒔絵硯箱
1合
日本・江戸～明治時代 19世紀
根津美術館蔵



(拡大画像)



かがみやます
鏡山図
1幅
日本・鎌倉時代 13～14世紀
根津美術館蔵

銀泥で描かれた月の光があたり一帯を照らす、静謐な秋の情景を描く。添えられた和歌によって近江（現・滋賀県）の鏡山の景と知られる。



めいかかしゅうぎれ これのり
名家集切（是則集）
伝 紀貫之筆
1幅
日本・平安時代 11世紀
根津美術館蔵 植村和堂氏寄贈

名家集切のうち『是則集』の断簡で、りべつのぶ離別部「風」に収録される一首。秋風に裏返る葛の葉に「帰る」を掛けるなど、自然の風物に思いを託す。

同時開催展

展示室5 つわものの姿

初公開となるみつむら光村コレクションのかっちゅう甲冑を中心として、刀剣や刀装具、馬具などを併せて展示し、武士の美意識をご堪能いただけます。



くろかわかたどり おどしのはらまき
黒草肩取威腹巻
1領
日本・室町時代 16世紀
根津美術館蔵

初公開の腹巻。さね おどし札や威をはじめ金具なども室町時代の典型的な形式となっている。同時代で現存するものは少なく、貴重な作品である。

暑さの盛り、茶の湯では客が涼しさを感じられるように点前に工夫を凝らします。夏の茶席にふさわしい茶道具約20件の取り合わせです。



れいひんみしまひらちやわん
礼賓三島平茶碗
1口
朝鮮・朝鮮時代 16世紀
根津美術館蔵

朝鮮半島の官庁・礼賓寺で使用するために作られた皿を茶碗として転用したもの。このような平らな碗は、茶が冷めやすいため夏に好まれる。

展示室6 夏点前 涼みの茶

開催概要

展覧会名	企画展 「花を愛で、月を望む―日本の自然と美―」
主 催	根津美術館
開催期間	2021年7月22日 [木・祝]～8月22日 [日]
開館時間	午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)
休館日	8月9日 [月・振休]を除く毎週月曜日
入館料	オンライン日時指定予約 一般 1300円(1100円) 学生 1000円(800円) ※()内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。 ※オンライン日時指定予約の定員に空きがある場合のみ、当日券(一般1400円)を美術館受付で販売いたします。
アクセス	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、 B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
住 所	〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1
お問合せ	Tel. 03-3400-2536(代表) website http://www.nezu-muse.or.jp

広報制作物のメール配信のお知らせ

当館の広報制作物のメール配信を開始しました。従来の郵送から、メール配信への切り替えをご希望の方は、根津美術館広報課 (press@nezu-muse.or.jp) へどうぞお知らせください。なお、郵送とメール配信の併用はご容赦ください。

次回展 企画展「はじめての古美術鑑賞一人をえがく―」 2021年9月11日(土)～10月17日(日)

「はじめての古美術鑑賞」シリーズも5回目となりました。今回のテーマは、絵画の重要なジャンルである人物画。その日本における歴史と展開を、祖師像や肖像画、風俗画など、様々な作品を通してご紹介します。

同時開催：

展示室5「陶片から学ぶ―朝鮮陶磁編―」

展示室6「残茶―秋惜しむ―」



右) 美人図(部分)
宮川長春筆
日本・江戸時代 18世紀
根津美術館蔵 福島静子氏寄贈
左) 藤原鎌足像(部分)
日本・室町時代 16世紀
根津美術館蔵

*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2021.4.)